

事業名称	「2019 飾磨街道フェス～日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」
団体名・代表者	「銀の馬車道」飾磨街道活性化委員会 代表 高澤 龍一
協働の相手方	企画政策推進室

目的	姫路城外堀の「飾磨津門」から南にほぼ直線で4 km、飾磨津に通じる古くからの街道「飾磨街道」が日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」として認定されてはや2年をすぎようとしている。しかし、朝来・神河等に比べ飾磨では「銀の馬車道」のルートすらまだ誤解されていて、日本遺産認定を地元地域活性化にいかせていない。このイベントを開催することで、古くから姫路城下の外港としてまた「北前船寄港地」としても栄えた「飾磨津」の歴史を、「飾磨まち歩きマップ」配布を通じて、次世代の子供達にも地元の魅力を伝え、誇りと自信をもって地元地域を元気にしていきたい。
内容	1. ポニー馬車スタンプウォーク：飾磨津物揚場赤レンガ塀からポニー馬車と一緒に飾磨街道を北上し、途中橋東公民館を経由、メイン会場亀山本徳寺を終着点とするスタンプウォークする。 2. 姫路市立橋東公民館にて、歴史講話を実施する。①銀の馬車道 ②飾磨津と日本遺産 3. 本徳寺特設ステージと境内にて、コーラスや紙芝居、フリーマーケットと沿線特産販売する。
事業経過	1. 銀の馬車道の南の拠点「飾磨津物揚場赤レンガ倉庫塀」を撤去改修し、記念公園化事業の竣工を記念して、11月イベント事業を計画したが、撤去改修事業が進まず時が流れる中、それなら「飾磨津物揚場赤レンガ倉庫塀」の見納め的なイベントとして、12月15日に実施することとし、準備して無事、事業を実施することが出来た。
事業の効果	偶然にも「ブラタモリ」放送（姫路城&飾磨津をブラリ）翌日の「飾磨街道フェス」開催となり、ポニー馬車スタンプウォーク出発地点の飾磨津物揚場赤レンガ塀付近には、小学生を含む約40人が集まり、「飾磨まち歩きマップ（歴史フィルタ付）」を配布しながら、飾磨津・銀の馬車道の話をし、参加者から「勉強になりました」との声を多く聞いた。飾磨橋東公民館では、「歴史講話」を開催、約40人を前に①銀の馬車道②飾磨津と日本遺産について、約1時間写真を交えて説明し好評を得た。メイン会場では、ポニー馬車到着時には境内を多くの方が埋め尽くし、イベントや物販でにぎわった。ここでも「飾磨まち歩きマップ（歴史フィルタ付）」を配布し、イベントの合間に、司会者や当会副代表が、マップ作成目的と使い方のポイントを説明し理解を得た。イベント前後を通して、「飾磨まち歩きマップ（歴史フィルタ）」を約800部配布することが出来た。このマップを片手に飾磨津を散策し、我が町の歴史と文化を学び、自分の言葉で情報発信して、地域活性化に繋げていってほしい。
今後の展望	① 飾磨街道沿線自治会との連携の強化を図り、飾磨街道「ワンチーム」を合言葉に、継続定着した地元活性化行事としていく。 ② 来年は東京オリンピックが開催されます。フランス柔道チームの事前合宿が姫路で行われます。フランス柔道の父「川石酒造之助」は、姫路市手柄の生まれ、その東に「銀の馬車道」飾磨街道が飾磨津まで伸びている。その道は、フランス人技師の手で作られた。「姫路とフランス」これをキーワードに、オリンピック閉幕直後に「2020 飾磨街道フェス」を開催し、日仏友好を内外に、この姫路から発信したい。

【実施団体の事業総括・感想等】

飾磨地区の皆様と手柄地区の会員が共に、楽しめた催事であったと思います。次なる機会では、定着した地域コミュニティ活性化事業として発展していくものと希望します。 是非、次年度も提案型協働事業に取り上げて頂きたいと存じます。
--

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

日本遺産である「銀の馬車道」や「北前船」を主軸にした地域の歴史を感じられる事業であり、地域の魅力の再発見と地域資源の継承につながる事業であったと考える。特に、ポニー馬車やスタンプラリーなど、子供たちの参加を促すような取組もあり、子供たちに地元の魅力を伝えられたことは、地域への誇りや愛着を育むことにつながったのではないかと感じる。フランス柔道チームの事前合宿を好機に、さらなる地域の活性化に取り組んでいただきたい。